

開講年度・学期	2017 年度・後期	授業形態	演習
科目名	法政 2 年次演習	科目ナンバー	JASEM2202
英語表記	Seminar on Legal and Political Studies for Sophomores	担当教員	守矢 健一
単位数	2		
科目の主題			
判例を読む			
授業の到達目標			
<p>実定法の勉強に気が進まない学生でも、実定法の勉強もおもしろいかもしれないと思っていただければ、また、実定法の勉強が元々好きな学生も、その際の視野が一層広がり理解が深まれば、よい、と思う。</p>			
授業内容・授業計画			
<p>とりわけ民事法を学ぶ場合には、条文の十分な理解と学説の把握だけでなく、判例に対する理解があることが必要とされる。なぜだろう。この問題を、学生と共に考えたい。そのために、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 来栖三郎の有名なエッセー「法律家」『末川先生還暦記念 民事法の諸問題』（1953）、234-254 頁所収、を読む。（2、3 回くらい？） 2. 続いて、数回をかけて、裁判例を分析することの必要を説く、末弘巖太郎と我妻栄の諸論考を、丹念に読む（テキストの詳細は追って提示する）。（4 回くらい？） 3. 著名な法哲学者の仕事 <i>H. L. A. Hart, Diamonds and String: Holmes on the Common Law</i>（8 頁ほどの短い論文）を読む。 4. 来栖三郎の論文「債権と準占有」を綿密に読む。（2 回くらい？） 5. 民事法の領域の、いくつかの判例評釈を実際に読む。（残りの大部分の回） 6. まとめ（自由討論） 			
事前・事後学習の内容			
<p>事前に、課題テキストを、報告担当以外の学生も、できる限り正確に読むこと。演習における事後学習の意義ははっきりしない。演習時の討論に限界まで集中し、それを繰り返すことで、回を追うごとに、討論の内容の厚みが増すようにすることにつとめればよいだろう。</p>			
評価方法			
<p>事前準備の入念さの度合い、討論における立論の緻密さ大胆さ、などを総体的に評価する。大胆な立論を目指した結果として、致命的に誤った発言を行ったなら、それは高く評価される（失敗は成功の基）。</p>			
受講生へのコメント			
<p>課題に対して、入念に準備すること。自分に正直な仮説を立てること。</p>			
教材			
<p>来栖三郎「法律家」『末川先生還暦記念 民事法の諸問題』（1953）、234-254 頁所収；同「債権と準占有」民商法雑誌 33 卷（1956）、477-505 頁所収、など。</p>			
その他			
履修可能最低年次			
2 年次生のみ			